

時代と対話する1時間

one hour

【表紙】匠の結晶

2015年度グッドデザイン・ものづくりデザイン賞受賞
ヤエン ストーブ レギ

注目の企業に学ぶ
株式会社いちい

カルテの余白
神戸大学教授 岩田健太郎

活キル字ハ語ル
『ようこそ、障害者スポーツへ』伊藤数子著

シーンでfit
「工作中編」

一問一答経営塾
「人材育成編」



注目の
企業に
学ぶ

株式会社
いちい

笑顔に出会う、
仕組みをつくる。

株式会社いちい
代表取締役社長
伊藤信弘 Nobuhiro Ito

1957年、福島県生まれ。大学卒業後、東京の中堅スーパーマーケットに入社。祖父が創業した「いちい」のルーツが海産物商であることから「自分は肉屋を学ぶ」と、精肉部門に勤務し、肉の解体から調理加工、売り場での対面販売まで経験する。約3年後、福島へ戻り、株式会社いちいに入社。当時6店舗あったスーパーマーケットの1店舗を任せられるとともに、バイヤーとして全店分の精肉の仕入れを担当する。4店の店長を務めた後、管理部門の部長となり、スーパーマーケット事業だけでなく新規事業（ペット事業や外食事業等）の経営管理、財務、人事等を統括。2002年、代表取締役に就任する。

注目の企業にぶ

福島県下13店舗のスーパーマーケット事業をはじめ、地域の「見守り」も担う移動販売事業、ペット事業や外食事業などを展開する株式会社いちい。代表の伊藤信弘社長は、東日本大震災後、独自に放射線測定器を導入し測定結果を公表。同時に「福島型GAP*」を作成して、土作りから県産食材と地元生産者の信頼回復に努めるなど、常に「地域と次世代」に尽くしておられます。

聞き手：高野恭子（大同生命保険株式会社 郡山支社）

次世代を担う子どもたちへ、
「日本一安全」な食品を。



当社は海産物商として創業した124年前から、地域の

皆さまの食卓へ「より鮮度の良いもの」をお届けしたいと考え、食品スーパーマーケットに業態を移してから品質路線を貫いてきました。しかし過去には、他店との価格競争に流されそうになった時代もあります。私が入社したのは34年ほど前ですが、大手スーパーさんより「5円安く」がルール化されていたこともあったのです。

私は競合店と戦うために「何を武器にすればいいのか」と、模索を繰り返しました。グロサリー商品（缶詰や乳製品などの生鮮品以外の食品や、調味料などの食品雑貨）



福島市山下町にある、新機軸のスーパー「フォースマーケット」。信頼農場（契約農家）の新鮮野菜や、日本各地から集められた「こだわり食品」が並ぶ。

の品揃えを同じにすれば価格競争にしかない。生鮮品も、同じ市場で仕入れれば差別化できない。そこで行き着いたのが「美味安心」というプライベートブランドで、無添加食品の品揃えを充実させました。また、想いを共有してくださる農家の方々、約350軒と「信頼農場」の仕組みをつくり、安全性と「本物の味」を追求しました。やは

り「食」を突き詰めていくと「未来を担う子どもたちのため」という想いに集約されるのです。しかし、現場との間には温度差がありました。「確かに美味しい。確かに安心できる。けれど高いから売れない」と、方針がなかなか浸透しませんでした。その意識が明らかに変わったのは、震災後のことです。来店されるお客さまは不安を口にされ、地産地消コーナーの売り上げは目に見えて落ちていきました。生産者の方々も疑心暗鬼になり、風評被害にさらされて困り果てていました。私自身、打ちのめされ「もう終わりだ」と何度も思いました。それでも店を回ると、社員やパート客さまのために「と励まし合いながら必死で働いているのです。その姿を目にして、私が落ち込んでいるわけにはいかないですよ。行政機関にも導入される放射線測定器を入手し、おそらく日本一早く、生

鮮品の安全性を確かめて販売しました。当初、契約農家の中には測定結果の公表をためらう声もあったのですが、実際に安全が確認されると「これで安心して孫に食べさせられる」と笑顔を取り戻してくださいました。そのときの顔を、今も忘れることができます。

結果的に私どもは、県や市、福島大学、そして契約農家の皆さまのお力を借りて、ある意味「日本一安全な食品」を扱うことができています。放射能の問題だけでなく、土壌汚染や残留農薬なども含めて一番厳しい基準で生産する仕組みを構築できたからです。震災後、お客さまの意識が変わりました。ご高齢の農家さんも多いのですが、生産者の意識も変わりました。流通に携わる我々の意識も変わりました。将来、この福島が「日本が一番、子どもたちの未来を想う地域」と世界中から認識されるようになったら嬉しいですね。

*GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) とは、関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、各工程の正確な実施、記録、点検および評価を行なうことによる持続的な改善活動。

